

# 一般社団法人 日本生態学会

## 平成 28 年度 第 2 回通常理事会議事録

1. 日時：2016 年 7 月 9 日（土）13:00～17:00
2. 場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス会議室 B
3. 出席者：
  - ・理事会構成員（20名・定足数10名以上）  
（理事）可知直毅、占部城太郎、岡部貴美子、石井励一郎、池田浩明、久米篤、古賀庸憲、吉田丈人、日浦勉、辻和希、宮下直、佐竹暁子、湯本貴和、川北篤、近藤倫生、別宮有紀子、吉田正人  
（全理事20名中、17名参加）  
（欠席理事）長谷川雅美、大澤剛士、鈴木まほろ
  - ・監事：陶山佳久、竹中明夫
  - ・オブザーバー：中野伸一
  - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数10名を超える17名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い可知直毅会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第46条に則り、可知直毅会長、陶山佳久監事、竹中明夫監事とし、議事録作成者は岡部貴美子専務理事が担当する。

### 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
  - ・資料 1 に基づいて岡部専務理事より報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
  - ・資料 2 に基づいて久米編集長より報告があった。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
  - ・資料 3 に基づいて古賀編集長より報告があった。例年に比べてページ数が大幅に増えている。
  - ・「学術情報」についてはニュースレターへの掲載が良いのではないかとの意見があり、今後検討することになった。
4. 保全生態学研究編集委員会報告
  - ・資料 4 に基づいて報告があった。

## 5. 大会報告（仙台・東京）

### 【仙台大会】

- ・資料 5 に基づいて占部副会長より報告があった。近年の参加者数は変わっていない。今後の大会でも大会関連データを引き継いでいくことが提案された。
- ・会計は補助金を得るなど実行委員会の努力により収支つりあう形で終えられた。
- ・仙台大会はシンポの応募が少なく、自由集会が多かった。また、懇親会参加者（特に学生の参加）が減っているため今後工夫が必要との意見があった。

### 【東京大会】

- ・川北理事より準備状況について報告があった。今回より発表システムを国際文献社に外注する。大学開催で会場も例年より多めとなっている。

## 6. 各種委員会報告

### 【キャリア支援専門委員】

- ・資料 6 に基づいて別宮理事より報告があった
- ・女子中高生夏の学校グッズ提供は「エコロジー講座」6 冊。今後のためグッズ作成については生態教育専門委員会に依頼することになった。

### 【自然保護専門委員会】

- ・資料 6 に基づいて吉田正人理事より報告があった。
- ・4/22 亀岡のサッカースタジアムについて、環境大臣・文部科学大臣に意見を出したとの報告があった。スタジアムについては建設場所の移動が検討されている。

### 【大規模長期】

- ・資料 6 に基づいて日浦理事より報告があった。6 月 19 日北海道大学において **JaLTER-ILTER** ジョイントシンポジウムが開かれ、10 カ国から 58 名の参加者があり、生態学のネットワーク形成の進展や窒素循環研究について活発な議論がなされた。また、このシンポジウムと前後して **ILTER** の国際トレーニングコースが北海道大学研究林において 7 日間にわたって行われた。

## 7. 学術会議報告

- ・吉田丈人理事より報告があった。「生態学の展望」今年度中に出る予定。
- ・辻理事より自然史博物館提言が出されたとの報告があった。
- ・次期連携会員の推薦あれば現連携会員まで申し出てほしいとの報告があった。

## 8. 業務委託進捗報告

- ・ 資料 7 に基づいて池田理事より報告があった。マイページ英語版に時間がかかっている。

## 9. 熊本地震への対応報告

- ・ 石井理事から報告があった。生態学関連施設では特に大きな被害なし。調査地については引き続き情報収集をする。

## 10. 京大生態研の動きと将来について

- ・ 資料 8 に基づいて中野オブザーバーより報告があった。

## 審議事項

### 第 1 号議案 琵琶湖賞運営委員の委嘱について

- ・ 資料 9 の提案が全会一致で承認された。

### 第 2 号議案 運営改革について（アンケート結果報告）

- ・ 資料 10 に基づいて吉田丈人理事より大会あり方検討部会報告があり、大会改革について提案のスケジュールで進めることが全会一致で承認された。
- ・ 資料 10 に基づいて池田理事・岡部専務理事より第 1 回会員アンケート報告があった。
- ・ 受賞講演の実施方法について、判断材料としてプレナリーと平行でのプログラムを提示してはどうかとの意見があった。
- ・ 占部副会長より大会について集会のコンテンツはそのままでもよいのではないか。むしろ値上げしてもよいか？開催地を大学か、コンベンションか？地区持ち回りを続けるのか？といった点を見直してはどうか。また、企画委員会が大変という声があるが、責任感と権限、インセンティブを与える科学委員会のように少人数で、2～3 日ですべて集まって決めるなど、企画委員会のやり方そのものを見直すことができないかという提案があり、意見が交わされた。
- ・ 企画委員会のリクルートの問題について、昨年キャリア支援委員会で公募をやってみたら 7 人応募があった。応募された方はモチベーションが高い。企画委員会も公募をしてみてもどうかと意見があった。

### 第 3 号議案 全国大会について（フォーラムの扱い・参加費）

- ・ 資料 11 に基づいて東京大会の大会参加費と懇親会費の提案があった。大会参加費については執行部案が承認された。懇親会費については実行委員会で再度検討した後理事会で承認することになった。
- ・ フォーラム開催の事前アンケート実施が全会一致で承認された。

#### 第4号議案 INTECOL 北京について

- ・ 資料12に基づいて生態学会としてのシンポジウム提案締め切りが8/1まで延期されたので、積極的な提案をお願いした。
- ・ 学会より湯本氏と中野氏に旅費を支給することが全会一致で承認された。

#### 第5号議案 委員会からの承認依頼 (ER・生態誌・キャリア支援)

##### <ER編集委員会>

- ・ 新編集委員として資料2で提案の中村誠宏氏 (AEIC)、横川太一氏 (Editor) が全会一致で承認された。

##### <生態誌編集委員会>

- ・ 新編集委員として資料3で提案の白川勝信氏、草刈秀紀氏が全会一致で承認された。
- ・ 投稿規定改訂案の記事区分「学術情報特集」追加が全会一致で承認された。ニュースレターの活用や、政治色・メッセージ性の強い記事についての取り扱いについて意見があった。

##### <キャリア支援委員会>

1. 男女共同参画学協会大型アンケート諮問案について全会一致で承認された。
2. 東京大会でのアカリクとの共催による企業紹介ブースの実施が全会一致で承認された。(仙台大会では120人(学生の6人に1人)がキャリア支援フォーラムに参加したとの報告があった。)
3. 東京大会での「こども生態学講座」の実施について試行ということで全会一致で承認された。今後は自主財源を考えていく必要があるのではないかとの意見があった。
4. 東京大会参加者の属性アンケート実施について全会一致で承認された。方法は委員会と執行部で検討することになった。
5. 副委員長として宮下直氏、新オブザーバーとして荒木希和子氏が全会一致で承認された。

#### その他

1. アメリカ生態学会年大会への学会としての参加について
  - ・ 101回フロリダ、102回オレゴンにて開催予定。生態学会より続けて代表を送ることが全会一致で承認された。
2. ER冊子体廃止について
  - ・ ER編集委員会は了承済。会員に東京大会で諮ることが全会一致で承認された。
  - ・ 生態誌・ニュースレターの冊子体廃止については引き続き検討することに

なった。

閉会：以上の議事を終え、17時に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

平成28年7月9日

会 長 : 齊藤 隆 ⑩

監 事 : 陶山 佳久 ⑩

竹中 明夫 ⑩